

白山の自然誌 28

# 白山の鳥たち



2008年3月

石川県白山自然保護センター

## は じ め に

春の野山にさえずる鳥の声を聞くと気持ちはなごみますが、最近私たちは鳥の声をゆっくり聞くようなゆとりが少なくなってきました。

世界では約9,000種の野鳥が生息し、日本には約600種の野鳥が知られています。石川県では約400種が確認されていますが、白山地域ではそのうち約130種が記録されています。

白山ろくの低山帯や村里からブナ林などの山地帯、そして高山帯にまで、野鳥はそれぞれの場所で生息し、私たちの目や耳を楽しませてくれます。本誌ではそのうち春から夏にかけて見られる野鳥を中心に30種を紹介しました。この小冊子が白山地域の自然教室や野鳥を観察するときの参考になれば幸いです。

なお、本誌は主に市町村合併前の白峰村、尾口村、吉野谷村（現在は白山市）などで収集した資料を基に整理しました。

**【表紙】** コガラ (S)  
本文参照 (P.10)

## 目 次

白山地域の野鳥 .....	2
白山地域の野鳥リスト (表) .....	3
高山帯・亜高山帯の野鳥 .....	4
高山帯・亜高山帯の野鳥 (1) .....	
高山帯・亜高山帯の野鳥分布 (図) .....	5
〔とりどりアラカルト (1) 春はつがい生活、冬は群れ生活〕 .....	
高山帯・亜高山帯の野鳥 (2) .....	6
〔とりどりアラカルト (2) 鳥たちのホームレンジ (行動圏)〕 .....	7
山地帯の野鳥 .....	8
ブナ林の繁殖期の野鳥の比較 (図) .....	9
ブナ林の野鳥 (1) .....	10
〔とりどりアラカルト (3) カラ類の混群〕 .....	11
ブナ林の野鳥 (2) .....	12
カラ類の頭部の比較 (図) .....	13
〔とりどりアラカルト (4) キツツキ類——ケラ類〕 .....	
イヌワシ .....	14
イヌワシ、クマタカ、トビの比較 (図) .....	
石川県のイヌワシの主な分布域 (図) .....	15
低山帯・村里の野鳥 .....	16
〔とりどりアラカルト (5) 野鳥のさまざまな頭部や尾羽の形〕 .....	17
白山ろくのスズメの繁殖状況 (図) .....	18
ブナ林で野鳥観察しよう .....	20

## 白山地域の野鳥

白山の代表的な野鳥は、ブナ林など落葉広葉樹林に住む山地帯の野鳥と白山の高山帯や亜高山帯の野鳥ですが、山ろくの低山帯や村里から高山帯までの白山地域でこれまで約130種が確認されています。一年中見られる留鳥<sup>りゅうちよう</sup>としては、村里周辺でスズメ、セグロセキレイなど約25種、山地帯から高山帯ではヒガラ、ゴジュウカラ、イワヒバリ、ホシガラスなど約25種記録されています（高山帯や亜高山帯で夏に繁殖したイワヒバリやホシガラスなどは冬には山地帯へ移動して越冬します）。いっぽう、春に南から渡ってくる夏鳥としては、村里周辺ではイワツバメ、キセキレイなど約20種、山地帯から高山帯ではオオルリ、メボソムシクイ、アマツバメなど約30種あげられます。これら約100種の鳥が白山地域に生息する主な種類ということになります。また、アトリやツグミなどの冬鳥やオオミズナギドリやノビタキなど渡りの途中で発見されたり、稀に発見されたりした種類が約35種知られています（白山地域の野鳥リスト参照）。



新緑の頃の白山とブナ林  
(白山スーパー林道より)

(H)

## 白山地域の野鳥リスト

渡りの 主な 生息地	留鳥(※)	夏鳥(※)	冬鳥(※)	その他
高山・ 亜高山帯	イワヒバリ、カヤクグリ ウソ ホシガラス (冬は山地帯などに移動)	チョウゲンボウ アマツバメ、ビンズイ ルリビタキ、 メボソムシクイ サメビタキ		オオミズナギドリ シラオネツタイチョウ カワウ オジロワシ オオワシ アカハラダカ カタシロワシ
小 計	4種	6種		
山地帯 (ブナ林 など)	ツミ、ハイタカ イヌワシ、クマタカ ヤマドリ、アオバト ヨゲラ、オオアカゲラ アカゲラ、アオゲラ ミソサザイ ヨガラ ヒガラ、シジュウカラ ヤマガラ、ゴジュウカラ イカル	ジュウイチ、カッコウ ツツドリ、ホトトギス コノハズク オオコノハズク ハリオアマツバメ ヨタカ、プッポウソウ サンショウクイ コマドリ コルリ、マミジロ ウグイス センダイムシクイ キビタキ、オオルリ コサメビタキ、ノジコ クロジ		バン、オバシギ ヤツガシラ ヤイロチョウ アカモズ ノゴマ、ノビタキ イソヒヨドリ マミチャジナイ エゾセンニュウ シマセンニュウ エゾムシクイ クイタダキ エゾビタキ キバシリ ミヤマホオジロ ベニマシコ
小 計	17種	20種		
低山帯・ 村里	ミサゴ、トビ、オオタカ オシドリ、カルガモ キジ、キジバト フクロウ、ヤマセミ カワセミ、ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ、モズ カワガラス、トラツグミ エナガ、メジロ ホオジロ、カワラヒワ スズメ、ムクドリ カケス ハシブトガラス ハシボソガラス	アオサギ、ダイサギ アマサギ、コサギ ササゴイ、ゴイサギ ミゾゴイ、サシバ イソシギ、アオバズク アカショウビン ツバメ、イワツバメ キセキレイ、クロツグミ ヤブサメ サンコウチョウ ニュウナイスズメ	ノスリ コガモ、マガモ オナガガモ、カワアイサ キレンジャク ヒレンジャク ジョウビタキ、シロハラ ツグミ、カシラダカ アオジ、アトリ、マヒワ ハギマシコ、シメ	イスカ
小 計	26種	18種		
合 計	47種	44種	16種	25種
総 計		132種		

※石川県の鳥類,1998、白山地域自然環境調査報告書,1981などを参考に作成

※表記は日本鳥類目録改訂第6版,2000による

※その他は、稀に見られるもの又はこれまで記録された種類

※ : 本誌で写真を掲載し、解説した30種

※留鳥: おおむね年中同一の地域に生息する種類

夏鳥: 春に渡って来て繁殖し、秋には南の国などに渡っていく種類

冬鳥: 秋に渡って来て、冬を当地で過ごし、春先には大陸などに渡っていく種類

## 高山帯・亜高山帯の野鳥

白山の砂防新道の標高約1,700mから徐々にオオシラビソが見えはじめ、メボソムシクイやウソ、ルリビタキの声が聞かれるようになります。また、標高約2,000mを越えて弥陀ヶ原や五葉坂あたりまで行くとカヤクグリやホシガラスが見られるようになります。標高2,450mの室堂周辺では夏すぎにはナナカマド類やハイマツの林でカヤクグリやウソ、ウグイスのほか、ヒガラ、シジュウカラなど山地帯の野鳥も見られることがあります。御前峰や大汝峰周辺など白山主峰群の岩場ではイワヒバリが見られ、上空にアマツバメやイワツバメなどが飛びます。



高山帯風景

(H)

### 高山帯・亜高山帯の野鳥（1）

#### ①イワヒバリ

日本の高山帯の代表種。白山では御前峰や大汝峰を中心に繁殖し、別山や七倉山などでも見られますが、数は多くありません。冬には山地帯や低山帯で生活します。白山市木滑の林道上や鷲走谷で観察されたことがあります。北アルプスや南アルプスなどの高山帯で普通に見られます。スズメより少し大きい。



イワヒバリ

(S)

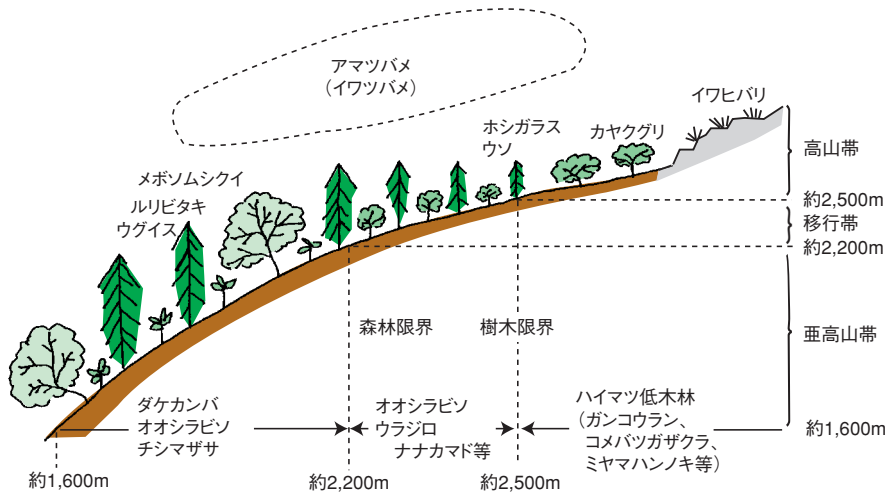
#### ②カヤクグリ

ハイマツ林やオオシラビソの低木林で見られます。砂防新道では甚之助避難小屋あたりから室堂の間でよく観察できます。室堂周辺のハイマツやナナカマド類などの木に止まっているのをしばしば観察できます。「チリチリ、チリチリ」と木の頂きでさえずります。冬は山地帯や低山帯に移動して過ごします。スズメぐらいの大きさ。



カヤクグリ

(S)



### 高山帯・亜高山帯の野鳥分布

(植生及び標高は米山, 1991による)

#### とりどりアラカルト (1)

#### 春はつがい生活、冬は群れ生活

鳥たちは春から夏の繁殖シーズンはオスとメスの2羽のつがい生活をして、秋から冬には何十羽も群れで生活する種類がたくさんいます。イワヒバリやスズメなどは同じ種類の鳥だけが

集まって群れで生活しますが、「カラ類の混群」(P11参照)のように他の種類と群れになって生活する種類もいます。

## 高山帯・亜高山帯の野鳥（2）

### ③ビンズイ

白山の南竜ヶ馬場や登山道のエコーラインなどの「お花畑」周辺などで見られます。個体数は多くありませんが、金属的な複雑な声で「ピンピン、チーチー」と鳴きます。スズメくらいの大きめで、4～5月や9～10月の渡りの時期には白山ろくの村里で見られることがあります。夏鳥。



ビンズイ (S)

### ④ホシガラス

白山ではハイマツやオオシラビソの実が熟してくる8月ごろになると、マツボックリを口にくわえて飛んでいるのを見ることができます。また、登山道沿いでハイマツの種子の食い跡をみることができます。夏は亜高山帯から高山帯で生息しますが、冬は山地帯で過ごします。秋には「ガー、ガー」と鳴きながら飛ぶ姿がよく目立ちます。カラスと近縁種でハトぐらいの大きさ。



ホシガラス (S)  
(ハイマツの種子をくわえている)

### ⑤メボソムシクイ

砂防新道では標高1,700mあたりからこの鳥の「チョリ、チョリ、チョリ、チョリ」と鳴く声が聞かれるようになります。南竜ヶ馬場周辺のトンビ岩コースや展望歩道周辺などでよく見られます。4～5月や9～10月の渡りの時期には金沢市や白山市などの平野部でも見られることがあります。スズメぐらいの大きさ。夏鳥。



メボソムシクイ (S)



## ⑥ルリビタキ

砂防新道の甚之助避難小屋周辺から上部にかけて声が聞かれるようになり、南竜ヶ馬場周辺からトンビ岩コースや展望歩道などでよく声が聞かれます。「ヒッ、チョロロ、チョロロ」と鳴きます。オオシラビソやナナカマドなどの低木林の地上で巣をつくります。冬は低山帯に移動して過ごします。スズメぐらいの大きさ。主に昆虫食。



ルリビタキ (S)

## ⑦ウソ

砂防新道では、標高1,700m～1,800mのオオシラビソが見えるあたりから「フィー、フィー」と口笛のような鳴き声が聞かれます。樹木を利用して皿型の巣を作ります。冬は低山帯に移動し、ときどき社寺や公園の桜などの花芽をついばんで話題になります。スズメぐらいの大きさ。



ウソ (S)

## ⑧アマツバメ

チブリ尾根や加越国境の稜線で羽音をたてながら飛ぶのが見られますが、白山地域の繁殖場所は百四丈滝などです。ハトぐらいの大きさ。夏鳥。



アマツバメ (N)

### とりどりアラカルト (2)

#### 鳥たちのホームレンジ (行動圏)

鳥たちは大空を飛んで自由の象徴のように思われますが、繁殖期には小鳥類で数百メートル四方程度、大型のワシタカ類でも数キロメートル四方程度の行動圏しかありません。限られた

行動範囲のなかで結婚し、子供を育てます。巣場所や食べ物などの環境が良好だと、もっと狭い範囲で生活することもできます。

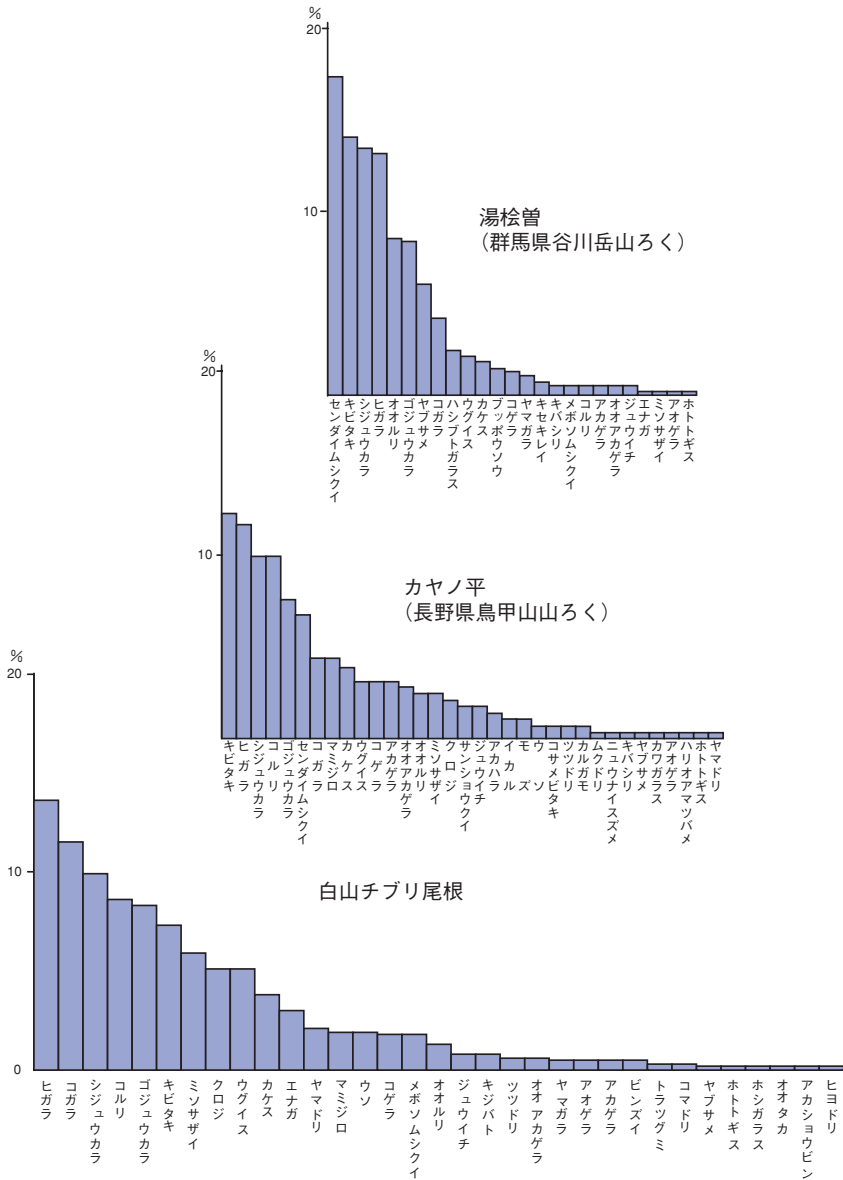
## 山地帯の野鳥

白山に広く分布するブナ林は大小さまざまな樹々が5月になると一斉に芽吹いて生命の息吹が感じられます。野鳥たちも大きな声で鳴き始め、ブナの林はまるで自然の音楽堂です。白山のブナ林では全国的に有名な戸隠高原やカヤノ平（長野県）、富士山ろくの須走<sup>すばしり</sup>（静岡県）などの森林と同じように多くの野鳥が見られます。初夏のブナ林では30種以上の野鳥の声を聞くことができますが、そのうち、本誌では姿や声が確認しやすい代表的な野鳥を掲載しました。ほかにもカッコウ、ホトトギス、ツツドリ、ジュウイチ、イカルなどの声もよく聞かれます。サンショウクイ、センダイムシクイ、ヤマガラなどは普通に見られます。また、コノハズク、ブッポウソウ、アカショウビンなどの希少な種類もときどき見られます。



新緑のブナ林（チブリ尾根）

(H)



ブナ林の繁殖期の野鳥の比較

(縦軸(%)は相対優占度を示す。中村, 1988、上馬, 1985より作成)

## ブナ林の野鳥（1）

### ①オオルリ

金属的な声で「チーローリー、リュリュ」と朗々と鳴きます。木の枝先でさえずっていることが多いので観察しやすい鳥です。鳴き声がよいため日本三鳴鳥（他の2種はコマドリ、ウグイス）と言われています。オスは背中のもり色と腹部の黒と白い模様が特色。大きさはスズメぐらい。主に昆虫食。夏鳥。



オオルリ

(S)

### ②コルリ

ブナ林で「ヒッヒッヒッヒッ、ジョリ、ジョリ、ジョリ」とリズムカルに鳴きます。低木のまわりにいることが多く、体の色あいがオオルリに似ていますが、背面はオオルリよりくすんだるり色。腹部は全面が白色。大きさはスズメぐらい。主に昆虫食。夏鳥。



コルリ

(S)

### ③キビタキ

夏鳥たちが渡ってくるころはブナ林は明るく、林内を好むキビタキもよく見られます。5～6月の繁殖期は縄張りを主張し、よくさえずるため観察しやすくなります。「ツクツクボウシ」と聞こえるような声で鳴きます。大きさはスズメぐらい。のどの部分が鮮やかなオレンジ色。主に昆虫食。夏鳥。



キビタキ

(S)

### ④コガラ

「カラ類」（ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ）の一種で、近縁種のヒガラは低山帯にも移動しますが、コガラはほとんど山地帯で生活します。「チーピー、チーピー」と繰り返しさえずります。樹洞で営巣。スズメより一回り小さい。頭部は黒く、腹部は白い。主に昆虫食。山地帯で年中生息する留鳥（写真は表紙）。

### ⑤ヒガラ

白山のブナ林でもっともよく見られる鳥の一種。「ツツピン、ツツピン」とさえずり、非繁殖期には低山帯に移動するものもあります。スズメより一回り小さい。頭部は白黒で、胸は蝶ネクタイのような模様があります（P13参照）。主に昆虫食。山地帯で年中生息する留鳥。



ヒガラ (S)

### ⑥シジュウカラ

市街地から山地帯まで分布します。「ツピー、ツピー」とさえずり、主に広葉樹林で繁殖しますが、市街地でも繁殖します。巣箱をよく利用します。スズメぐらいの大きさ。頬が白く、背中が薄い黄緑。腹に黒いネクタイのような模様が特徴。主に昆虫食。年中生息する留鳥。



シジュウカラ (S)

### ⑦ゴジュウカラ

樹の幹を上下して独特の餌探しをします。春先に「フィフィフィ」と繰り返しさえずります。冬の低山帯でカラ類と一緒にいることがあります。樹洞で営巣。スズメぐらいの大きさ。背中は灰色、腹の下部は茶色。主に昆虫食。山地帯で年中生息する留鳥。



ゴジュウカラ (S)

#### とりどりアラカルト (3)

##### カラ類の混群

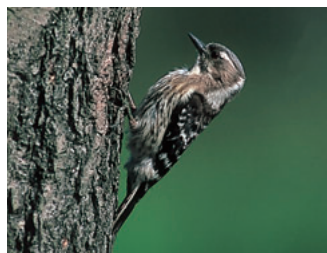
秋から冬の間、ヒガラやコガラ、シジュウカラなどシジュウカラ科の鳥が群れになり、「カラ類の混群」を形成します。この中にゴジュウカ

ラやメジロ、コゲラなどの鳥たちも一緒に行動していることがよくあります。

## ブナ林の野鳥（2）

### ⑧コゲラ

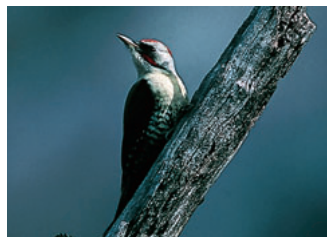
日本のキツツキ類でもっとも普通に見られる種類。市街地の林でも繁殖します。「ギー、ギー」と木と木が擦れあったような声で鳴きます。樹木につかまりやすい上下2本ずつに分かれたあしゆびと硬く短い尾羽が特徴（下図及びP17参照）。スズメぐらいの大きさ。主に昆虫食。背中が黒白の縞々模様。年中生息する留鳥。



コゲラ (S)

### ⑨アオゲラ

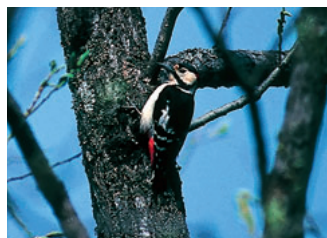
低山帯から山地帯まで広く分布する日本固有種。アカゲラやオオアカゲラよりも見る機会の多い種類。「ピョー、ピョー」と鳴く声の特徴。里の熟したカキの木にも現れ、金沢市の普正寺の森でも越冬することがあります。スズメの2倍ぐらいの大きさ。主に昆虫食。頭部は赤く、背中が黄緑色。年中生息する留鳥。



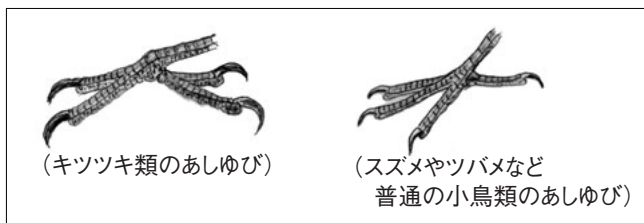
アオゲラ (S)

### ⑩アカゲラ

山地帯のキツツキ類の代表種。「キョッ、キョッ」と鳴き、アオゲラと同じぐらいの大きさ。主に昆虫食。頭部の一部が赤く、背面は黒に白い斑。お尻あたりの赤色が識別のポイント。年中生息する留鳥。



アカゲラ (S)



### ⑪クロジ

ササが多い場所で生息し、「チーヨーチー、チヨチヨ」とリズムカルな哀感のある声でさえずります。赤兎山近くの小原峠周辺や砂防新道の中飯場の上で声を聞くことができますが、生息数が多くありません。冬場は低地に移動しますので、低山帯や村里で見られることがあります。



クロジ (S)

### ⑫クマタカ

山地帯のタカ類の代表種。ブナ林や広葉樹の林内や上空をときどき飛びます。白山市一里野にあるブナオ山観察舎ではよく見ることができます。トビより一回り大きい。ノウサギ、タヌキ、ヤマドリなどを食べます。年中生息する留鳥。国や県のレッドデータブックに記載される絶滅危惧種。



クマタカ (S)



シジュウカラ



ヤマガラ



コガラ



ヒガラ



エナガ

「カラ類」の頭部の比較

#### とりどりアラカルト(4)

#### キツツキ類—ケラ類

コゲラやアオゲラなどを「ケラ類」とも言いますが、これらの鳥は一般にキツツキと呼ばれます。名前のとおり、鋭い嘴くちばしで枯れ木をつついて、

木の中に潜んでいる虫を特別な長い「舌」で引っ張りだして食べます。

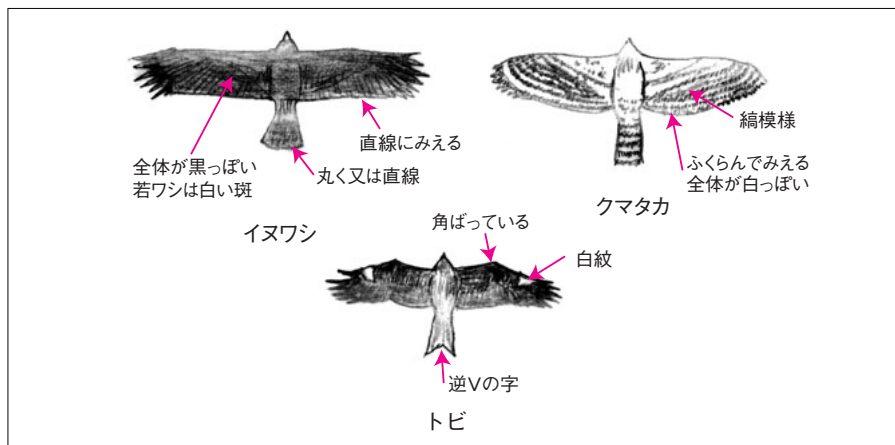
### ⑬イヌワシー白山の鳥の王者

日本の山地帯の野鳥の食物連鎖の頂点に立ち、その勇猛な姿から石川県民のシンボルとして昭和40年に県鳥に指定されました。平成10～12年の調査では、白山地域を中心に県内に15つがい程度生息していることが分かりました。国（環境省）のレッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されています。



滑空するイヌワシ (S)

イヌワシは晩秋に繁殖行動を開始します。オスとメスが一緒に飛んだり、オスが波状飛行を繰り返します。その後、12月から1月にかけて巣づくりをして、2月に産卵します。約40日間の抱卵と70～90日間の育雛によって白山では6月に巣立ちます。幼鳥は10月ごろまで親から餌をもらったり、餌のとり方を教わったりして過ごします。白山のイヌワシの行動範囲は約20～60km<sup>2</sup>。全国的な平均面積は約60km<sup>2</sup>です。親鳥はアオダイショウやヤマドリ、ノウサギなどを探して雛に与えます。上空を飛んでいるイヌワシ（成鳥）は全体的に黒っぽく見え（若鳥は白い斑があります）、翼の下の部分が直線に見えます。クマタカは全体的に体下面は白っぽく見える他、横斑があり、翼の後縁がふくらんで見えます（下図参照）。

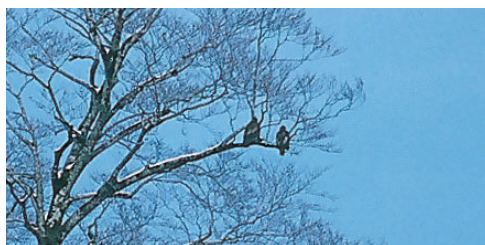


イヌワシ、クマタカ、トビの比較





石川県のイヌワシの主な分布域  
 (自然環境研究センター編, 2001より作成)



木に止まっているイヌワシ (S)

## 低山帯・村里の野鳥

白山の低山帯や村里では、集落人口の減少や高齢化などの影響で生息数の減っている野鳥がいる一方、イワツバメのように人工工作物が増えたことによって生息地が増えている種類も見られます。

### ①イワツバメ

海岸から山地帯まで広く分布しています。白山ろくではスーパー林道やスキー場の工作物などを利用して多数繁殖しています。白山一里野温泉スキー場や金沢セイモアスキー場ではツバメより多く見られます。3月末ごろ渡来し、9月ごろ南へ渡っていきます。夏鳥。



イワツバメ (S)

### ②ニュウナイスズメ

金沢セイモアスキー場や白山一里野温泉スキー場などでは毎年2~3つがいが出てきて繁殖します。「チー、チー」と鳴き、オスは頭が赤っぽい茶色。繁殖期はヒナに昆虫を与えます。夏鳥。



ニュウナイスズメ (S)

### ③キセキレイ

山地帯の溪流や川のそばで生息し、主に水生昆虫を食べます。岩壁や民家の鬼瓦などを利用して営巣します。スズメぐらいの大きさ。腹部が黄色で背部が灰色。白山ろくでは3月中下旬に渡来する夏鳥。



キセキレイ (S)

### ④サシバ

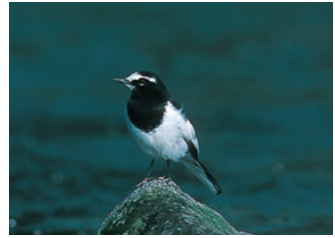
南の国から渡ってくるタカ的一种。「キンミー」と鳴きます。水田や畑が荒地となり、餌のカエルやヘビが減ってきたため全国的に減っています。カラスぐらいの大きさ。色は茶褐色。尾羽に縞模様があります。夏鳥。



サシバ (S)

### ⑤セグロセキレイ

日本固有種で村里で普通に見られます。近年、近縁種のハクセキレイが旧鳥越村の上野周辺や旧吉野谷村の下吉野周辺などに侵入し、セグロセキレイと競合状態になっています。スズメより少し大きく、昆虫を食べます。白黒のはっきりした色。年中生息する留鳥。



セグロセキレイ (S)

### ⑥カワガラス

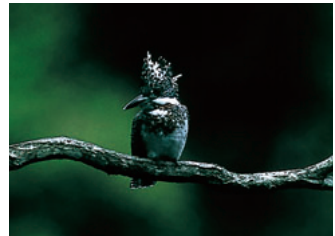
主に低山帯の溪流で生息し、川の中を歩いたり、潜ったりして水生昆虫を食べます。岩壁や橋脚などを利用して球形の巣をつくります。スズメの2倍ぐらいの大きさ。全身濃い（黒っぽい）茶色。「ビッビッ」と鳴いて川の上を行き来します。年中生息する留鳥。



カワガラス (S)

### ⑦ヤマセミ

主に低山帯の溪流でイワナやヤマメ、ウグイなどの魚を川に飛び込んでつかまえます。ハトぐらいの大きさで、白っぽい。「キヤラキヤラ」と鳴きます。土壁に穴を掘って巣を作ります。年中生息する留鳥。



ヤマセミ (S)

### とりどりアラカルト (5)

#### 野鳥のさまざまな頭部や尾羽の形



シジュウカラ



ゴジュウカラ



イカル



キセキレイ



シジュウカラ



ツバメ



カケス



ハヤブサ



モズ



キジ



アオゲラ

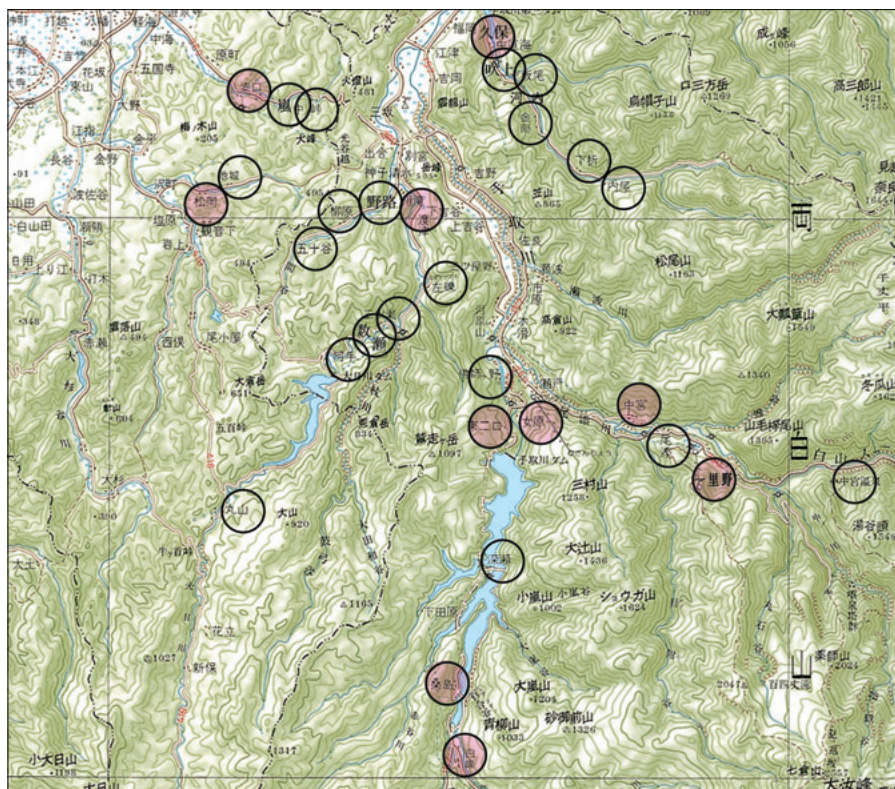


エナガ

## ⑧ スズメ

### スズメが消失する集落

スズメは身近な鳥の代表種です。数十年前は白山ろくでもたくさん見られましたが近年めっきり少なくなりました。白山ろくの30集落の繁殖状況を調べたところ、20集落でスズメは見られませんでした。スズメがいない集落の特徴は、高齢者が多く、人口が少なくて水田が耕作されていないことなどでした。人が多い集落はスズメにとっては生息しやすいようですが、人が少なくなるとスズメは集落を出ていきます。人が少なくなるとスズメの外敵であるカラスやイタチなどが増え、休耕田や荒地が増えると明るい開かれた土地を好むスズメにとっては嫌な環境になり、そのような集落を避けていると考えられます。



## スズメの繁殖場所

白山ろくのスズメはさまざまな場所で繁殖しています。スズメバチやイワツバメの古巣、郵便受け、鉄骨、電柱など数十年前には見られなかった変わった場所を利用している例が増えてきました。それだけ営巣場所が不足していると考えられます。これらはいずれも人が大勢いる場所や交通量の多い場所であることが共通しています。人がいないところや少ない場所（家）ではスズメは営巣しないのです。これは、おそらくスズメが人と共生してきた長い歴史に関係があると思われる。人の近くで巣づくりして子育てするほうが、生存上有利であることを知っているものと思われる。



家の飾り用の土管 (H)



巣箱 (H)



キイロスズメバチの巣 (H)

スズメのさまざまな営巣の場所

# ブナ林で野鳥観察しよう

## 1) チブリ尾根

白山の登山基地の市ノ瀬から約1kmのチブリ尾根の登山口からブナ林が始まります。野鳥観察はここから約2～3kmが最適。体力があればチブリ尾根の避難小屋まで登って白山の展望を楽しむのもいいでしょう。市ノ瀬ビジターセンターでは最新の野鳥情報が得られます。

## 2) 六万山周辺

市ノ瀬から約1km歩いて釈迦岳口に行き、六万山の登山口に出てから湯ノ谷川沿いの釈迦岳登山口までの1～2kmの林道で野鳥観察が楽しめます。クロツグミ、コルリ、ゴジュウカラ、ヒガラやコガラなどのカラ類の声もよく聞かれます。

## 3) 白山中宮道（中宮温泉からのコース）

中宮温泉から始まる中宮道は室堂まで約20kmありますが、野鳥観察に適した場所は温泉裏の中宮道の登山口から、白山が初めて見えるあたりまでの約2kmの間がいいでしょう。カラ類やキツッキ類などブナ林に住むほとんどの鳥が楽しめます。



チブリ尾根の野鳥観察ルート

## あ と が き

昭和45年1月8日、能登で捕獲されたトキが、翌年3月13日、収容先の佐渡トキ保護センターで死亡し、県内最期のトキとなってしまいました。「石川県の絶滅のおそれのある野生生物」(いしかわレッドデータブック)(石川県編,2000)で特に絶滅の恐れのある野鳥が約30種(絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類)あげられていますが、夜行性のミゾゴイやヨタカなど目立たない野鳥は絶滅しそうになっても簡単には分かりません。近年はその生息環境が地球温暖化により見えないところから脅かされている可能性もあります。これらの希少な野鳥は生物界の一員として、それぞれの生態系を担っており、かけがえのない存在です。

トキを絶滅させてしまった私たちには、野鳥のことをすこしでも知り、いつまでも野鳥の声が森や村里に響くような農林業施策と環境保全活動に取り組む責務があると思います。

### 【うら表紙】 ミソサザイ (S)

ブナ林などの溪谷に生息することが多く、金属性の高い美声でさえずります。断崖や岩壁にドーム型の巣をかけます。春～夏は山間部から亜高山帯で生息しますが、冬は村里に移動します。スズメより小さく、主に昆虫食。全身茶褐色。

\*写真の下のアルファベットSは関幸良、Nは中村正博(故)、Hは林哲が撮影。

白山の自然誌 28  
白山の鳥たち

発行 平成20年3月31日  
文・構成 林 哲  
写真 関 幸良、中村正博(故)、林 哲  
発行 石川県白山自然保護センター  
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4  
TEL076-255-5321 FAX076-255-5323  
http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/index.htm  
E-mail:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp  
印刷 (株)中川印刷

